

イントロダクション： 本来成長とはすばらしいものである。投資をした時、筋トレをした時、子供を育てた時、何かを勉強した時、種を植えた時、その成長や効果が見えることは喜ばしい。通常成長とは健康的で活力に満ちたものであるが、逆に死や病気など、好ましくないものが「成長」することもある。健康な教会となるには正しい部分が成長すること、特に信者一人一人が霊的に成熟することが大切である。成熟したクリスチャンのしるしは、御霊の実の成長、御霊による行いや賜物が見られることである。ただし残念ながら霊的成長や霊的成熟というのは時間が経てば自動的に得られるものではない。霊的に成長しようと常に意識していなければ肉の欲に成長してしまう（気を付けないと罪の中に成熟してしまう）。今日の箇所からは成熟したクリスチャンと未熟なクリスチャンの違いについて見ていこう。

1. さて、兄弟たちよ。私はあなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。(3:1)
 - a. パウロは少なくとも3種類の人 — 御霊に属する人(pneumatikos)、ただの人(psychikos anthropos)、肉に属する人(sarkinoi) — を挙げている。御霊に属する人は神によって生まれ変わり御霊の知恵によって生きているので神の霊と共にある。ただの人というのはこの世の霊によって生きていて、神の御霊による支配がない(1 コリント 2:14)。キリストにある幼子(1 コリント 3:1)は神の御霊を受け入れたのにもかかわらずただの人のように歩んでいる。パウロはこのような「未熟なクリスチャン」のことをギリシャ語で“sarkinois”と呼んでいる。それは彼らが“psychikos”(natural person)のように歩んでいるからである。
 - b. クリスチャンとは霊による生まれ変わりを経験した者である。私たちはクリスチャンになるとキリストにある幼子としてスタートするが、たしかに生まれたばかりの赤ちゃんとブーンアゲインクリスチャンには多くの共通点があると思う。だがここでパウロが指摘しているように、かなりの時間が経っているにもかかわらず彼らにはキリストにあつての成熟が見られなかった。彼らは依然としてキリストにある幼子のままだったのである。
 - c. 彼らが霊的に成長できなかった理由は、彼らが御霊によってではなくこの世の流れによって生きていたからである。彼らの選択、彼らが持っていた信念、彼らが取っていた行動、態度はすべてこの世的だった。御霊による知恵にではなく肉の知恵に従った生活をしていた。

2. 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるではありませんか。ある人が、「私はパウロにつく」と言えば、別の人は、「私はアポロに。」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。(3:2-4)
 - a. クリスチャンとして成長、成熟しなかった結果、彼らは神の啓示とある種の教えを聞くことだけにとどまった。パウロはそのようなことだけを語るように指示されていたのかもしれない。彼らのレベルでは十字架のメッセージとパウロの証くらいしか聞けなかったのである。乳とは新約聖書の中ではしばしば最も基本的なクリスチャンの教義のことを指す。
 - b. 彼らはこの世的な態度、信念を持っていたため成長しなかった。彼らの内心にはねたみがあり、信仰はパウロかアポロを基準にし、言葉と争いがあるまま態度と信念に出ていた。
 - c. 成熟したクリスチャンというのはいくつかの要素によって判断できる。どれだけ御霊によって導かれているか(多くの場合御霊によって導かれていない人にとっては馬鹿げて見える)、そしてどこに希望をおいているか。私たちは永遠に希望をおき、その希望によって生きていくのである。